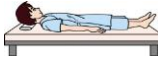


結腸、上・中部直腸切除術(腹腔鏡下)入院計画表No. 1			病棟: _____ 患者様氏名: _____		
担当医: _____		病棟担当看護師: _____			
説明日: _____		説明看護師: _____			
経過	手術3日前～2日前まで	入院日	手術前日	手術当日(前)	手術当日(後)
目標	手術の準備ができる。	看護師と相談しながら手術の準備ができる。	看護師と相談しながら手術の準備ができる。	看護師と相談しながら手術の準備ができる。	苦痛を訴えることができる。手術後の安静が守られる。
食事	栄養剤 を飲んでもらい、食べ物は摂れません。ゼリー、ヨーグルト、プリン、牛乳ジュースなど繊維の無いものの摂取可能です。	栄養剤を飲んでもらい、食べ物は摂れません。ゼリー、ヨーグルト、プリン、牛乳ジュースなど繊維の無いものの摂取可能です。	消灯時までにはOS-1を250ml飲んでいただきます。 21時以降は、水・茶・スポーツドリンクのみにになります。	6時までにOS-1残りを飲んでいただきます。 午前 時以降水も飲みません。	翌日医師の許可が出るまで、水は飲みません。
安静度	制限ありません	制限ありません	制限ありません	制限ありません	ベッド上安静です。 
排泄		下剤を内服した後、排便があるか確認させていただきます。		手術室に行く前に、排尿を済ませておきます。	手術中に尿を出すための管が入ります。
清潔		臍の処置をした後、シャワーに入って頂きます。			
点滴・薬	※医師の指示によって、下剤を内服することがあります。 手術3日前:センノサイド2錠 2日前:センノサイド2錠 ラキソベロン1/2本 ※残りのラキソベロン1/2も持参してください。	入院日に現在内服されている薬と薬の内容が明記された用紙またはお薬手帳を忘れずにお持ちください。		朝より点滴を行います。	手術中、背中に痛みどめのチューブが入ります。痛みが強い時には鎮痛剤を使用できますのでお知らせください。
検査・治療		不足している検査がある場合は、入院時検査をすることがあります。入院中は、血圧・体温・脈拍の測定を適宜行います。		血圧、体温、脈拍測定を行います。 	酸素吸入、心電図モニターを装着し、血圧・体温・脈拍測定を夜間も行います。吸入を午前・午後、夜に行います。 
説明・指導	タバコは手術後の痰を多くしますので、やめましょう。	担当看護師より手術の説明があります。		・歯磨きを行い、点滴をする前に手術衣に着替えます。義歯や装飾品は外します。 ・家族の方は、病室またはラウンジでお待ちください。	手術後、医師より家族の方に説明があります。深部肺静脈塞栓予防のストッキングを履いています。床ずれ予防のため、体の向きを変えましょう。
その他	用意して頂くもの ☐ お薬とお薬手帳 ☐ メイン 9本、ペプタメン3本 ☐ OS-1 1本 (1階売店で購入できます。) ※手術で使用する分のオムツの用意は不要です。	よりよい入院生活のため、今までの生活についてお話を聞きます。		時 分に手術室へ行きます。 	・手術中、病院での家族待機は不要です。手術終了後、医師からご家族へ電話連絡を行います。 ・手術後、1日だけ詰所の前の部屋に変わります。

結腸、上・中部直腸切除術（腹腔鏡下）No. 2

***ご不明な点などございましたら、お近くのスタッフへ声をおかけください。**

***この計画書は現時点で考えられるもので、今後病状などにより変わります。その場合は再度説明いたします。**

術後1日目	2日目	3日目	4日目	5～6日目	7日目
看護師とともに歩行練習ができる。	歩行練習を積極的に実施できる。	ゆっくり食べるができる。		排便コントロールができる。	退院準備ができる。
回診後、許可が出れば水分が開始になります。栄養剤を1日3本配膳の時間に配りますので飲んでください。	昼より3分粥開始です。	5分粥です。	7分粥です。	全粥です。	
最初は看護師と一緒に歩きます。 	制限はありません。	制限はありません。	制限はありません。	制限はありません。	
トイレまで歩行できれば、尿の管を抜きます。抜いた後、尿量を測定してもらいます。排尿時痛や血尿があった場合には看護師にお知らせください。		尿量測定を終了します。		しばらくの間、下痢や便秘になったりします。排便状況を医師や看護師にお知らせください。	
からだを拭きます。 	からだを拭きます。 	背中チューブが抜ければ、シャワーに入れます。	シャワー浴が出来ます。	シャワー浴が出来ます。	退院後、入浴できます。
24時間点滴を行います。医師の指示が出てから飲んでいた内服薬が再開になります。（血液をサラサラにする薬をのまれている方も同様です。） 		背中の痛みどめのチューブを抜きます。内服の鎮痛剤の処方があります。 			
酸素吸入は指示にて止めます。回診後心電図が外れます。採血とレントゲンがあります。 					採血を行います。 
手術後は傷の痛みがあります。体を動かした際に痛みが強くなりますが、動くことで合併症を予防し、早期回復に繋がります。 手術後に体を動かした際に痛みが強くなります。日がたつにつれて少しずつ楽になってきます。鎮痛剤の内服薬がありますので、お知らせください。			傷口にはダーマボンドという保護材がついているので、自然に剥がれるまで、無理に剥がさないようにしましょう。		医師の許可があり次第退院できます。退院時、次回外来受診の予約票をお渡しします。痛みどめの処方が必要な際にはお知らせください。
背中に痛みどめのチューブが入っていると尿が出にくくなることがあります。その時は背中の痛みどめのチューブが抜けてから尿の管を抜きます。	食事開始時は、摂取方法について看護師よりパンフレットを用いて説明があります。				診断書が必要な方は外来ブロックに提出して下さい。